

の具体策についてご講演いただきました。

続くシンポジウムでは、県内4施設の病院院長が登壇し、地域医療を維持するための現状と課題について議論が深まりました。

本学術集会在が、県内の医療の質向上と安定した地域医療提供体制の構築に資する機会となったことを期待いたします。

第15回愛媛県支部学術集会

学術集會会長：鬼北町立北宇和病院院長
吉田幸生

2025年11月15日(土)に松山市医師会館にて第15回日本医療マネジメント学会愛媛県支部学術集會を開催しました。約80名の方にご参加いただきました。



会場風景

さて、今回は「地域医療にこそ医療DXを」をテーマとし、特別講演として「医療DXを支える通信技術：ウェアラブルセンシングとボディエリアネットワーク標準化の最前線」と題して、伊藤孝弘先生(広島市立大学大学院情報科学研究科医用情報科学専攻講師)にご講演いただきました。

また、一般演題では、患者支援・退院支援、チーム医療、CS向上、看護運営、救急医療、人材育成、看護教育、安全管理、安全対策、医療情報、感染対策、安全教育・研修などの各分野から15題が発表されました。各発表ともに活発な質疑応答等が行われ、盛会のうちに終わることができました。開催にあたり多大なご支援とご協力を賜りました関係者の皆様へ、厚く御礼申し上げます。

第23回茨城県支部学術集會

学術集會会長：茨城県立医療大学附属病院院長
河野了

2025年12月6日(土)、茨城県立医療大学において第23回茨城県支部学術集會を開催いたしました。本学術集會は、医療に携わる多職種の皆様から多様なアイデアをご提示いただき、各職場で直面する課題克服の一助としていただくことを目的に、テーマを「叶える」といたしました。

特別講演では、茨城県保健医療部長・丸山 慧先生より「茨城県の保健医療の方向性～医療提供体制を中心に～」、筑波大学医学医療系循環器内科教授・石津智子先生より「心不全のチーム医療」と題したご講演を賜りました。

また教育講演では、本学教授・岸本 浩先生より「リハビリテーション栄養で叶える」と題してご講演いただきました。一



会場風景

般演題は口演37演題、ポスター13演題の計50演題が発表され、329名の参加者による活発な討論が行われました。さらにランチョンセミナー2演題、企業展示10ブースの出展もあり、盛会のうちに終了することができました。開催にあたり、多大なるご支援とご協力を賜りました皆様に、心より御礼申し上げます

第22回九州・山口連合大会

会長：国立病院機構別府医療センター名誉院長
矢野 篤次郎

2025年11月28日(金)、29日(土)の2日間にわたり、別府国際コンベンションセンター B-Con Plaza(大分県別府市)にて日本医療マネジメント学会 第22回九州・山口連合大会を開催致しました。

わが国をはじめ先進国の平均寿命は延伸し、「人生100年時代」といわれるようになりました。その一方で、多くの先進国では少子化、人口減少が進み、100年人生を支える「社会」には様々な問題が噴出しています。この「人生100年社会」における医療・福祉のあり方に関して、社会に向けてアカデミックな立場から提言をするべく本学術集會のテーマを「人生100年社会の医療マネジメント～臨床現場からの提言～」としました。

医療・福祉の現場における「人生100年社会」のトピックスとして、臨床倫理(多職種チームの活動)、ACP(アドバンス・ケア・プランニング)、医療DX(デジタルトランスフォーメーション)を活用した看護の質向上、特定行為研修修了者の現状と展望、薬薬連携、がん医療ネット



会長講演



会場風景